カトリック高松教区報

２０１８年７月１日（第１８５号）
発行所　カトリック高松司教区　広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成：　yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

マザー・テレサの言葉
私たちにとって、マリア様は喜びの源です。わたしたちに、イエス様を贈って下さったからです。わたしたちもイエス様を贈ることによって、他の人々の喜びとなることが出来ます。

傾聴・寄り添い・産業への支援も

大船渡・南三陸ベース活動報告会

大雨が予想され、開催が心配される中で東日本大地震被災地を支援する大阪教会管区が運営するカリタス大船渡ベース及びカリタス南三陸ベースのベース長によるベース支援活動報告会が6月10日（日）桜町司教座聖堂で行われました。

当日行われた大船渡・南三陸ベースの2つの報告は次のとおり。

カリタス大船渡ベース報告

震災から7年2ヶ月が経過し、ハード面の復旧復興が進む中、各種支援団体やボランティアが急激に減少しています。

被災した方々が心穏やかな生活を取り戻す「本当の意味での復興」までには、まだまだ時間を要し、当ベースではこれまでの活動を継続して、被災地の方々に寄り添い続けて行く必要があると思っています。

大船渡ベースの活動報告をする菅原ベース長

見守り活動
・住宅被災者訪問
・みなし仮設住宅訪問
・高齢者、独居者訪問
・災害公営住宅入居者訪問
ベース計画イベント
・お茶っこ
・映画上映会
・手芸サロン
・折り紙サロン
・抹茶サロン
・歌っこの集い
・ちぎり絵・リース作り　等）
・買い物送迎、敬老会送迎

コミュニティ形成支援
・仮設住宅集会所訪問
・災害公営住宅集会所訪問
（お茶会・昼食会・映画上映会・メンズサロン・レクリエーション・たこ焼き・クリスマス会
・バレンタイン
・デーイベント
・イースターイベント　等
こども支援
・介護老人保健施設「居場所ハウス」
・復興商店街イベント補助
・地域の祭りへの手伝い
カトリック大船渡教会との連携
ミサ参加、教会行事の手伝い、降誕祭、復活祭ミサ後のパーティー、バザー手伝い等、地元信者との交流
海の星幼稚園への協力
隣接する海の星幼稚園の未就園児保育「ほしっこクラブ」へ、ボランティアやスタッフを派遣し、保育補助を行っています。

広報活動
・「大船渡だより」の発行（毎月1回）
・ブログの更新
・月間イベントスケジュール作成
地域に向けて、イベントスケジュール表を作成し、ポスティングを行っている。

土曜日午前中こどもサロン開催。少人数ですが、「ママサロン」という形に発展させ、母親たちが集える場にしていきたい。

外国人支援
被災地の外国人支援は市内では当ベースのみが行っています。子どもたちへの学習支援、親たちへの日本語補助、信者の子たちへの初聖体準備の支援を行い継続して行きます。

個人からの活動依頼
高齢者世帯や独居者世帯の様々な作業の補助を行う。ベースが請け負うのに適した活動かどうか検討し判断し、今後も可能な限り続けて行きたい。

ベースを会場にカルチャー教室
ベースは公民館としても利用されています
・ちぎり絵教室・陶芸教室
・ヨガ教室　等
また選挙の投票所としても利用されています。

被災地見学
ボランティアに来た方々にDVDを見て頂いた後、復興の進む被災地、復興とは程遠い被災地を見て回り、風化していく記憶を呼び戻し、この先、起こり得る災害に備える有意義な活動として、今後も継続します。

他団体との協力
・「まちの保健室」
・「福祉協議会」

「まちづくり」から「教会づくり」

カリタス南三陸ベース（旧米川ベース）報告

・南三陸町について
震災前人口1万7千666人
現在の人口1万3千106人
・東日本大震災被災状況
死者数620人　行方不明者数211人
家屋約60%が全壊流出
町内仮設住宅59か所2200戸1570世帯

※2018年1月現在
254人84世帯

活動内容
震災から2～3年は瓦礫撤去や避難所での物資の仕分けなどが続きました。現在は以下のような活動にシフトしてきています。多くのボランティアの方達から「お手伝いにきたつもりが逆に元気を貰った。」という声が聞こえてきています。

・産業支援
漁業、農業、林業、モアイ像作り、みちのく潮風トレイル整備等
・地域福祉
仮設住宅お茶っこ傾聴、子ども達の見守り、戸別訪問、障がい児見守り
・イベント
草木染体験、紙すき体験、福祉祭りなど
・震災遺構等案内
防災・減災教育
・米作りプロジェクト
収穫祭を被災地で行い地域コミュニティ再生事業と結びつける。また第一次産業を行いより被災地の方達に寄り添っていく。
戸別訪問の際にもお裾分けして、ベース食材としても活用。
・みちのく潮風トレイル＆ボランティア体験
・殉教地巡礼＆ボランティア体験
・復旧した沿岸部に木のモアイ像を30～40体設置予定。
・大船渡ベース～南三陸ベースボランティアツアー
・石巻ベース～南三陸ベースボランティアツアー

南三陸ベースのボランティアさんと漁業者の皆さん

今後の方針
・東日本大震災後、被災地に寄り添い様々な活動を通して生まれた多くの縁は「まちづくり」へと繋がっていった。この縁を財産とし、南三陸という小さな町で「まちづくり体験」を通し、ボランティアたちが各地に戻ってからも「まちづくり」に興味を持つきっかけとなる場所を創っていく。
・震災を乗り越え、強く生きている地域の方達から、命の大切さや人間の強さを学ぶ。
・漁業や農業支援を通して「食」への感謝を学ぶ。
・人の為に何か奉仕したいというボランティアの人達を、人種や宗教を問わず迎え入れる場所を創り続ける事が本質的な宣教と捉え「教会づくり」をしていく。

名称変更
「カリタス南三陸ベース」（2018年度より）
「カリタス米川ベース」は殉教地に拠点を設けた為、南三陸の被災者たちにはキリスト教の団体として安心して貰えたが、日本中の方たちにはどこが活動場所なのか分かりづらかった。そこで名称を変更し活動場所を分かり易くした。

ボランティア延べ人数・17375名（2018年4月末まで）

前田大司教　枢機卿に

教皇フランシスコは、5月20日の正午、バチカン・サンピエトロ広場に集まった巡礼者や訪問者に向けての「アレルヤの祈り」を祈る際、6月29日の枢機卿会議において、14人の枢機卿を親任することを発表し、日本では6人目の枢機卿として前田万葉大司教（大阪教区）を選ばれました。

大阪教区に２人の補佐司教

前田新枢機卿は現在、日本カトリック司教協議会の副会長、常任司教委員会委員、学校教育委員会ならびにエキュメニズム部門の委員長などを務めています。

さらに教皇は、前田万葉大司教が枢機卿に任命された大阪教区に、2人の補佐司教を任命しました。クラレチアン宣教会のホセ・アベイヤ神父（68歳、写真左）とオプス・デイのメンバー、酒井俊弘神父（58歳、同右）です。

なお大阪教区の叙階式は、前田万葉大司教の枢機卿親任感謝ミサを兼ねて行われます。

叙階式
日時・2018年7月16日（月・祝）午前11時00場所・大阪教区カテドラル聖マリア大聖堂
大阪市中央区玉造2-24-22

さいたま教区司教に山野内倫昭神父を任命

また教皇フランシスコは、6月2日（土）、2013年以来、司教空位となっていたさいたま教区の新しい司教に、サレジオ修道会の現管区長、山野内倫昭神父（62歳）を任命する、と発表しました。

山野内被選司教はさいたま教区の教区長として歴代7人目、教区に昇格してからの司教としては5人目となります。

叙階式
日時・2018年9月24日（月・祝）午前11時00場所：浦和明の星女子中学・高等学校　ジュビリーホール
さいたま市緑区東浦和6-4-19

はばたき

夏がくるとやはり戦争のことが思い出されます。

一昨年の夏、教区の青年たちは司教様と共に、アウシュビッツ収容所後を訪問されたと聞きました。人類の歴史において、あのような悪の所業は存在しなかったもので、人類史において極めて忌まわしい出来事として永久に人間の記憶に残るであろうと言われています。

自らユダヤ人として収容所に囚われ、奇跡的に生還した精神医学者フランクル教授の著書「夜と霧」は、冷静な心理学者の眼でみられた限界状況における人間の姿の記録です。

そこには人間の精神の高さと人間の善意への限りない信仰があふれています。

どんな過酷な状況に置かれても、それで、人生のすべてが失われるのではない。そんな中にあっても自らの豊かさを育むことができ、人間らしさを輝かせることができると証言しています。そうです。あの聖コルベ神父さまのようにです。

それは未だ払拭し切れない現代の断面であり、政治や戦争の病誌でもあります。この病誌はまた別の形で繰り返されないとは言い切れません。

世界が再びこのような悲劇への道を歩むことのないようにと固く決意するためにも、まだ読んでいない方にはお薦めします。著書の最後の文章で締め括りたいと思います。

「解放され、家に帰った人々のすべてこれらの体験は、『かくも悩んだ後には、この世界の何ものも・・神以外には・・恐れる必要はない』という貴重な感慨によって仕上げられるのである。」

教区や修道会の枠を超え 共に教会に奉仕の大切さ

北条で春の司祭集会

高山　徹

4月16～17日、北条カタリナ・セミナーハウスにて、春の司祭・助祭集会が行われました。

プログラムは、2日間とも短いながら、盛り沢山でした。1日目は、祈りに始まり、司教様ご自身による司教書簡についてのお話、教区会計の現状についての報告と協議、司牧の分かち合いと続き、晩の祈りと夕食に続いてざっくばらんな懇親会となりました。

忌憚のない意見交換や議論のみならず、親交を深めるひと時だったと思います。

2日目は、性虐待被害者問題と典礼規則の確認の2つの研修の時間となりました。両分野は、性質が異なれど、司牧者として受け止めねばならない分野です。

初日と同様、活発な意見交換と司教司式による派遣ミサとなりました。

神学生時この司祭集会に参加したことがありました。その頃とは違い叙階の秘跡を頂いた今、自分も一緒に働くメンバーとして歓迎頂いていると感じました。何よりも嬉しいことでした。

2日間のプログラムの内容自体は、教会として取り組まねばならない様々な課題が含まれ、私にとって襟元を正す思いをするものばかりでした。

まだまだ駆け出しの自分には分からないことだらけですが、“神父さん”と呼ばれる中で自覚を促して頂いている現状です。

教えを請いながら、よく聞きながら、でもどこかで確たる決断をしながら、喜んで取り組んで参ろうと思います。

懇親会では、一人ひとりのバックグラウンドを語り合う場面がありました。趣味などを述べながら、会議でも、み言葉の分かち合いでもなく、ある種それらの中間のような、司祭としてのお一人ひとりの生きざまが見える時間でした。

大先輩の神父様方の体験はじめ、駆け出しの私には示唆や刺激を頂ける話が非常に多かったです。教区や修道会の枠を超え、共に教会で奉仕することを強く感じ励ましを頂きました。

1人ひとり現場を頂きそこに与りつつ、やはり司牧者のコレジアニタス（団体性）が不可欠であることを肌で感じさせて頂いた思いです。。

この記事に続き、本ページでは司祭集会において、高松教区が直面している3つの大切な事項についての司祭の分かち合いを報告として掲載しています。一読いただければ幸いです。

〈「豊かさ」報告〉

黙想会や研修会で養成を受けた後、その後のフィードバックがなされていない現状から脱出できないでいるのが現状のようだ。

上る階段全体が見えなくても、階段の最初の一段目を登り始めることがスタートに繋がる。

「教会はこうあるべき」の視点からではなく、『信仰の喜び・福音の喜び』を自分のものとし、その喜びを土台にした生き方が大事だ。

キリストのアプローチは一人一人を育てることにあった。教会も家族間の中で互いに育て合うことができるか。キリストも与えまた与えられながら、神と人々に愛されて成長していかれた。

キング牧師逝去50年を記念し、改めて彼の言葉を振り返ってみた。

彼の言葉は“I have a dream（私には夢がある）”から始まるが、教会は夢を持ちまた語っているか。キング牧師は続けて述べている。「いつの日か肌の色ではなく、人間性によって評価される社会が来ることを」、「最悪の状態は、圧政や悪の獰猛さではなく、善人の沈黙だ」と。キリストが告げ知らせた神の国とは、正にこのような世界到来を目指しているのではないか。

日本の国においてバブルが崩壊し、同時に教会の夢も崩れ去ったような感がある。常に完璧を求めるのではなく、失敗から何を学んだかが大事だ。失敗から必ず何かを学ぶはずである。そのためにはチャレンジ精神が必要だ。人が何をしたかではなく、一人ひとりの命ある尊厳こそが神の国に繋がるもの。

育てよう「教会共同体」

日曜日に初めて教会を訪れる人、中には一回限りの人もいるが、洗礼まで信仰を育む人もある。どのように教会共同体が親密に関わり、信仰の芽生えを共に育てていくかが大切だ。また受洗者のフォローアップも決してないがしろにしてはならないことは言うまでもない。

信仰生活には、いかなる圧力もあってはならず、そこには自由と喜びだけが存在する。このような教会共同体環境の中でこそ、「カリスマ」は生まれ育ち、更に与えられたカリスマをもとに、何をするのか識別できるようになる。目的のための人材確保ではなく、「あなたはわたしたちにとって大切な人です」が、心から相手に伝わったその時、本当の信仰の喜びへと繋がっていくのではないか。

キリスト教を伝えるのではなく、キリストを伝えて行くのが教会の使命と確信する。教会共同体における「養成→意識→組織」・「祈り→信仰→現実社会」、これらの柱を大事にしながら、福音マーケットによって気づいた、『カリスマを生かし合った奉仕の中にある豊かさ』を大事に生きたい。

本面記事３つの分かち合いの基となる学びの様子

〈地域社会と教会〉

①地域社会における教会についての問題提起

・40年以上この教区で働く中で、（教会に対する）考え方の変化を見ている。かつては、地域ごとに、どんどん教会を建てていく雰囲気があった。

・今、赴任した教会の状況として、例えばこの1週間の間、教会に立ち寄る近隣の人はいなかった。教会の周りの人にとって教会はどのような意味があるのか、建物に対して人々がどのような印象を持っているのか等、考えていく必要がある。心を開いて話せるようになっていったらよいと思う。

②地域社会における教会という問題に関わる小教区の事例

・長崎の或る教会は、観光客が多く立ち寄るようになり、信徒会館のお茶のお接待の中で、人々に教会への興味を深くして頂いている。

・新居浜教会の近所の方は、教会がないと淋しいと。

・伊予三島教会は、司祭が常駐していないが、週に一日は担当司祭が出向くべき。

・江ノ口教会で担当した5年の間、近隣の方が訪問したのはたった一度。その方は、「今まで全く教会とは関係がありませんでした」。

・日本社会の現状では、国全体のカトリック信者の割合は田舎も都会も変わらないのではないだろうか。社会の現状をいつも念頭におくべき。

・伊予三島教会は、神父が市役所委託の仕事を請け負ったりして、次第に信者さんが増えたらしい。そんな小さな教会でも、信者さん達が守り続けたという事実を信者さん達に強く伝えて感謝した。お蔭で今は外国人が40人。かつての主任司祭ビデガイン神父様は本当の宣教師だった。クリスマスには70人も集まったと聞いている。

③司祭としての宣教司牧上の課題

近隣の人に教会を開くには

・かつては、神父のうしろに信徒が位置するイメージの教会観だった。今は変わってきている。

・司祭が、洗礼の増加や実りを見ない等の寂しさや悲しさを大っぴらに伝えると信徒はショックだろう。未来のことは、神様が知っている。楽観する態度は神様の信仰によって支えられる。小さな教会で歩み続ける。

・教会関係の幼稚園や学校もあるのに、どこで種をまいていいか分かっていない所があるのではないか。

・幼稚園等を通して、ちょっとキリスト教が分かったとしても、その後信仰にまで至らないかも。

・司祭は教会に腰を据えて、あまり動かない方がいい。祈って活動する。祈りは、エンジンをかけるためのガソリン。祈りに支えられて初めて活動がある。

④教会に集う人々は誰か

・教会に外国籍の青年達を多く見る。社会状況が変化。

・逆に、外国籍の青年が教会にいなくなれば、日本は老人だけの教会になる。楽観ばかり出来ない。

・プロテスタントの方が、「日本の教会は何を望むんですかね」とコメント。

・問題を抱えた人が役所でも受けとめられず教会に。

・神戸の教会にはダルク、ホームレスの人のための部屋があった。その活動が気長に続けられている。自分たちは信徒のためだけではないと疑問を呈していく。

・本教区には学校もある。ほとんどの教会に幼稚園がある。幼稚園経営に傾注し過ぎず、司牧活動とのバランスを保ちたい。

⑤地域で教会が問題に取り組む取っ掛かりはあるか。

・宇和島教会は、「みんなの家」の札をかかげている。

・福岡の古賀教会は、近隣にもよく知られている。

・近隣社会との関係等、最初はどうしたらよいか分からないけど、出会いで何かが起こる。挨拶まわりするのもいい。私は、町の自治会に入った。地域社会での教会の姿が見えてくるはず。

司祭集会感謝ミサ後

〈経済の立て直し〉

「本部人件費に関わる説明」を教区会計・多田洋氏が大阪教会管区からの提案を基に行った。

※「納付金」とは、教区と小教区間の取り決めに基づく小教区から教区へ納めるお金を意味しています。

「納付金B」：人件費に関して

・2016年～2018年の3年間、大阪教会管区から高松教区財政再建プロジェクトのための援助金（年間500万円）は終了する。併せてこの間の高松教区自助努力の一環として「教区献金」（予算化できない個人による自主献金）に関しても、当初の予定通り2019年3月31日をもって終了となる。

・これまでは小教区で働く司祭の給料は、基本的には司祭の派遣を受けた小教区が負担する考え方で賄われてきた。しかし、高松教区司祭給与規定の満額を出せる小教区は数少ないのが現状である。給与規定の何割かを負担している小教区と全く負担できていない小教区もある。大きな小教区と小さな小教区とでは、収入格差と経済的体力から無理がある上に、公平性も保てないというのが現状である。そこで不足分を補うために、「納付金A」（活動資金に充当すべき資金）から補填している。このために高松教区においては、「納付金A」を予算化して十分に活かすことが出来ていない。

・大阪教区からの提案を参考に、教区で働く司祭給与（約16名）の年間総人件費を全小教区で割り（信徒在籍数割合と信徒通常献金収入割合の乗数係数ー〈検討課題〉）で平均化し、公平性を担保した維持費とした上で、全信徒で負担していくことを目指すことが相応しい在り方ではないかと考える。こうして「納付金B」（司祭人件費目的）を確かなものとしていくことが可能となる。

納付金の正しいあり方は・・

・このために、「納付金A」（活動目的資金）の小教区負担率を現行小教区維持費の20％からパーセンテージを引き下げ（急激な負担低減）、不足分は当面教区基金の取り崩しとすることが考えられる。

・今年度はそのための準備期間となる。教区民の合意が不可欠であり、そのための丁寧な説明が求められる。来年度（2019年度）予算に反映できるよう取り組んで行く必要がある。

・もう一つの課題は、給与資金確保がある小教区職員と司祭はともかく、給与確保ベースがない本部事務局職員の人件費をいかに確保するかである。従って、本部事務局職員の人件費確保も、こちらは「納付金A」に振り分けて同時に考えていく必要がある。

財政課題に関する意見

・信徒の減少・高齢化から献金は減少する。増加策を考える必要がある。

・日本の教区のいくつかは、外国から援助をもらっている。高松教区も考える余地があるのではないか。

・納付金A、納付金B、納付金Cの区別をしないで、一本化した方がよいのではないか。

・小教区単位で納付金を求めるよりも、地区やブロック単位で課した方がよいのではないか

・収入の確保だけに焦点を当てるのではなく、支出の削減にも焦点を当てるべきではないか。

・ユーストレは司祭間のアンバランスが起きている。是正が必要である。

・司祭給与で指摘されている最低賃金クリアについては、現物供与を監督署に報告して加算してもらうようにすれば可能ではないか。

・初めから人件費全額を納付金で賄おうとすると無理がおこる。人件費の何割かを納付金で賄い、残りは事業等で補填することを考えた方がよい。

・年金が支給されている司祭と対象となっていない、或いはほとんどない司祭とのアンバランスがあり、それを含めて検討する必要がある。

・教区司祭は、財産権を有するので、強制的に年金を給与と関連付けさせるのは無理があるのではないか。

・人件費のことは、教区民との信頼関係に基づき、ある程度公正なルールを作って決めていくことが肝要である。

2017年度カトリック高松司教区現勢調査報告

2017年12月31日現在

１．信徒数概況

	香川県	愛媛県	高知県	徳島県	合　計
面　積	1,876.77 Km²	5,676.23 Km²	7,103.86 Km²	4,146.80 Km²	18,803.66 Km²
人　口	966,917 人	1,361,850 人	712,357 人	742,113 人	3,783,237 人
前年度信徒数	1,492 人	1,559 人	745 人	759 人	4,555 人
信　徒	1,506 人	1,552 人	714 人	758 人	4,530 人
司教・司祭	9 人	10 人	5 人	2 人	26 人
助　祭	2 人	人	人	人	2 人
修道士	人	人	人	1 人	1 人
修道女	30 人	29 人	人	人	59 人
神学生	人	人	人	人	人
総　数	1,547 人	1,591 人	719 人	761 人	4,618 人
前年度総数	1,531 人	1,603 人	750 人	762 人	4,646 人

２．人員構成

司教		1 人
教区司祭		7 人
宣教修道司祭	ドミニコ会	8 人
	オブレート会	6 人
	スペイン外国宣教会	3 人
	宣教修道司祭小計	17 人
助祭		3 人
神学生		人
修道士		1 人
修道女	聖ドミニコ宣教修道女会	54 人
	松山修道院	14 人
	北条修道院	9 人
	新居浜修道院	6 人
	坂出修道院	19 人
	小豆島修道院	6 人
	聖母被昇天修道会	6 人
	修道女小計	60 人
教区外司祭		**12 人**

３．諸施設

（１）	教会	
	小教区	25 所
	巡回教会	2 所
	集会所	1 所
（２）	修道院	
	男子修道院	1 所
	女子修道院	6 所
（３）	教育施設	
	聖カタリナ大学	656 人
	聖カタリナ大学短期大学部	217 人
	愛光高等学校	706 人
	聖カタリナ学園高等学校	1,363 人
	愛光中学校	617 人
	幼稚園（22園）	2,519 人
（４）	医療／社会福祉施設	
	坂出マルチン病院	196 床
	高知聖園マリア園	1,308 人
	高知聖園天使園	59 人
	高知聖園ベビーホーム	39 人
	特別養護老人ホーム聖マルチンの園	50 人
	特別養護老人ホームマリアの園	57 人
	特別養護老人ホーム白百合荘	50 人
	特別養護老人ホーム聖マルチンの家	55 人
（５）	**一般事業・その他**	13 所

４．教区内組織

- 司教顧問会
- 司祭評議会
- 宣教司牧評議会
- 経済問題評議会
- 責任役員会
- 修道女連盟
- 典礼委員会
- 生涯養成委員会
- 青少年宣教司牧委員会
  - 教会学校教師会
  - カトリックボーイスカウト
  - 中・高生会
- 広報委員会
- 人権を考える委員会
- 諸宗教対話委員会
- エキュメニズム委員会
- 高松教区女性の会
- 高松教区幼稚園連合会
- 神学生養成委員会〈一粒会〉
- 高松サポートセンター
- 外国人司牧・ＩＣＣ

５．信徒数動向

教会名	信徒数				洗礼		転出入		死亡	堅信	初聖体	求道者	教会学校		ミサ参加			結婚			
	男性	女性	総数	不明	幼	成	入	出					信	未	主日	復活	降誕	①	②	③	④
桜町	303	503	806	63	11	6	4	2	6	5	6	5	17	10	150	300	350	2	1	0	1
番町	62	98	160	0	0	2	2	3	2	2	2	2	3	0	35	70	150	0	0	1	0
小豆島	24	34	58	0	0	9	0	0	6	0	0	2	0	0	20	40	60	0	0	0	0
三本松	19	20	39	12	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	25	25	30	0	0	0	0
坂出	59	124	183	0	2	2	1	3	3	8	5	4	14	23	60	170	300	0	0	0	0
丸亀	71	92	163	0	7	2	0	0	0	12	0	1	5	25	40	80	120	0	0	2	0
観音寺	9	18	27	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	17	25	40	0	0	0	0
善通寺	27	43	70	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	15	20	40	0	1	0	0
香川県計	574	932	1,506	75	20	21	8	9	18	29	15	14	39	58	362	730	1,090	2	2	3	1
松山	333	560	893	36	3	5	5	8	10	1	6	9	56	0	285	450	485	0	0	1	0
道後	61	112	173	17	0	3	4	0	3	2	2	3	3	0	57	143	194	0	0	1	0
今治	51	81	132	11	1	2	0	0	3	0	0	0	0	0	50	60	150	0	0	0	0
新居浜	62	94	156	0	0	2	0	0	2	12	2	1	12	0	50	80	130	0	0	0	0
西条	17	40	57	0	1	0	0	0	1	0	3	1	0	0	20	40	40	0	0	0	1
八幡浜	13	50	63	3	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	12	20	10	0	0	0	0
宇和島	16	42	58	0	5	0	0	0	2	0	0	0	0	0	32	80	136	0	0	0	0
伊予三島	10	10	20	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	30	45	70	0	0	0	0
愛媛県計	563	989	1,552	67	11	12	10	9	22	17	13	15	72	0	536	918	1,215	0	0	2	1
中島町	162	271	433	4	2	0	8	2	6	0	0	1	3	0	52	175	159	0	0	0	2
江の口	40	94	134	0	0	0	1	6	5	0	0	6	5	0	39	47	45	0	0	0	0
安芸	10	25	35	17	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	4	7	4	0	0	0	0
赤岡	10	16	26	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	10	30	30	0	0	0	0
中村	11	75	86	6	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	20	50	58	0	0	0	1
高知県計	233	481	714	28	3	0	10	9	15	0	0	8	8	0	125	309	296	0	0	0	3
徳島	172	276	448	6	2	7	7	3	3	0	4	11	30	0	122	315	357	0	0	0	0
鳴門	75	104	179	0	0	1	1	0	4	0	0	1	6	4	30	60	140	0	0	0	0
阿南	36	55	91	0	0	1	3	1	0	0	0	4	0	0	16	23	60	0	0	0	0
池田	10	30	40	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	25	35	0	0	0	0
徳島県計	293	465	758	6	4	9	11	4	7	0	4	16	36	4	185	423	592	0	0	0	0
教区総計	1,663	2,867	4,530	176	38	42	39	31	62	46	32	53	155	62	1,208	2,380	3,193	2	2	5	5
前年度	1,648	2,907	4,555	137	25	38	57	24	78	26	33	52	204	85	1,227	2,366	3,431	2	3	3	5

【結婚】　①＝カトリック同士　②＝カトリックと他のキリスト教　③＝カトリックと他の宗教　④＝非カトリック同士

教区スケジュール

7月
1日（日）年間第13主日
3日（火）聖トマ使徒
8日（日）年間第14主日
14日（土）司教座聖堂と会館建設委員会 14：00～16：00
15日（日）年間第15主日　高山右近祭in小豆島13:30～15:30
16日（月）海の日
20日（金）一粒会の集い13：30～16：00
21日（土）司祭評議会10：00～12：00
　宣教司牧・諸委員会・活動団体合同会議13：30～16：00
22日（日）年間第16主日
26日（木）聖マリアの両親聖ヨアキムと聖アンナ
29日（日）年間第17主日
8月
5日（日）年間第18主日「日本カトリック平和旬間」広島巡礼 5～7日
6日（月）主の変容　日本カトリック平和旬間（～15日）
11日（土）山の日　聖クララおとめ
12日（日）年間第19主日 下田武雄師命日（2012年8月12日）7周忌
14日（火）聖マキシミリアノ・マリア・コルベ司祭殉教者日
15日（水）聖母被昇天祭
19日（日）年間第20主日
22日（水）天の元后聖マリア
24日（金）聖バルトロマイ使徒
26日（日）年間第21主日
27日（月）聖モニカ　　佐々木光雄師命日
29日（水）洗礼者聖ヨハネの殉教
・8/22～26世界家庭大会inダブリン「家庭の福音世界の喜び」

「夫婦は愛のイコン」

教皇 フランシスコ
マリッジエンカウンター

MEとは、マリッジエンカウンターという英語の略称です。マリッジは結婚、エンカウンターは出会いです。

MEという言葉は、MEの運動、MEの生き方、MEのプログラム、その体験者やその集まり等、MEに関わる様々な側面を示す言葉として一般に用いられています。

ウィークエンドとは、MEが提供する2泊3日のプログラムを意味する言葉です。

5月3日～5日の間、聖カタリナセミナーハウス（松山市）でウィークエンドが開かれ、夫婦3組と聖職者2名が参加しました。

ここに、今までに無い体験をされた参加者の感想を紹介します。

◇高山徹神父

カップルの皆様の真摯な分かち合いと、それに続く各カップル（自分の場合は司祭同士）の対話、自分の心からの思いを綴る作業等の一つひとつを通して頂いたものが、心にすとんと落ちました。

心に残ったこと（言葉）が沢山ありましたが、一つは「愛することは賭けること」というキャプションです。

和気あいあいの集合写真

ご夫婦の具体的なエピソードを、このテーマが貫いていたような気がいたします。

それは、必ずしも鬼気迫ることでもなく、でも何かしっかりと意志を働かせ、思いを込めたご夫婦の“生きざま”です。

司祭として歩みはじめた今、必要な恵みを頂いた思いです。

◇高岡栄治&冨子

MEというものが、いったい何なのか、全くわからないまま、深く考えもせず、旅行気分で参加した私たちは参加者が顔をそろえた時点でも分かっていなかった。

プログラムが進むにつれて、私たちは、お互いの気持ちを伝えあうということに一生懸命になっていった。

私たちの37年間の結婚生活を深く考えさせられ、今後の2人の人生を正面から対話できるようになりました。

37年間の歳月を一緒に暮らした重み、お互い思い出を持っている幸せを、つくづく実感しました。

お互いの想いが分かるように、小さな手紙を交すことにより、お互いの気持ち、をしっかり知ることが出来、とても大切な時間をすごすことができました。

ようこそ スティーブ神父様

スティーブ神父様、ようこそ　お出でくださいました。神父様のミサ中のおはなしにはいつもクイズが出ます。ではこちらから質問です。

・お生まれは
１９８４年10月25日インド東部のタルミナドゥ州コーヤンブットゥール県。

・叙階日と来日は
オブレート会司祭として、２０１３年5月29日に叙階され、同年8月18日来日しました。そして2年間名古屋のＷＹＣＡで日本語を学びました。

・家族は
母と、結婚した姉、父は天国です。

・好きな食べものは
ケーキやクッキーなどのおやつで、酸っぱいものは苦手。鳴門の印象は―自然豊かな四国八十八カ所一番札所。

・担当される鳴門・阿南教会の信徒への希望は
大きいこと、細かいこと、難しいことは分かりませんが一緒に信仰を分かち合い、支え、助け、協力し合って主の平和を味わい、周りの隣人にも広げることが出来るように祈り、努力しましょう。

子どもたちが目を輝かせ、新しい風が吹いているのを私たち信徒は感じながら歓迎いたしております。

◇金祝◇ Sr・フィデス亀田京子

私と神様との出会いは中学校に入学した時でした。その後中3のご復活に洗礼のお恵みを頂きました。

１９６６年聖ドミニコ宣教修道女会に入会し、１９６８年10月に初誓願宣立。

１９７１年より現在まで松山の聖カタリナ学園高等学校で（教諭・事務長・顧問として）奉職しています。

その間１９８０年から2年半はローマ本部修道院でその後1年半は長崎修道院に赴任し稲佐教会のカテキスタとして奉仕しました。

その後再び松山修道院に赴任し、前述の高校で勤務するとともに、愛光学園でも宗教の非常勤講師として10年間勤務し、現在に至っています。　神に感謝！

誓願宣立記念　おめでとうございます

◇銀祝◇ Sr・マリア クララ 山口平子

私は聖カタリナ短期大学在学中、洗礼のお恵みをいただき、１９９１年に聖ドミニコ宣教修道女会へ入会しました。

入会する前に松山教会の聖堂で「神様、わたしの行くべき道を教えてください。」と祈りを開きながら祈っていると、「恐れることはない。わたしを信じなさい。」というみ言葉が響いてきて、入会を決心しました。

１９９３年に初誓願を宣立し、東京修道院、ローマ修道院で修道生活の勉強をしました。１９９９年に終生誓願を立て、松山修道院に赴任し、聖カタリナ学園高等学校で奉職しました。

その後、２０１０年に伊丹修道院で養成担当者として奉職し、２０１２年に再び聖カタリナ学園高等学校に戻り、現在に至っています。

神に感謝！

信仰の喜び

私にとっての信仰の喜びは、イエス様に出会い、どんなときも共にいて下さることでしょうか。神棚と仏壇がある家庭に育った私だが、近所のカトリック幼稚園に通った。

毎朝「私たちは小さいこども。手を合わせて祈りましょう。イエス様、私たちをあなたのよい子にして下さい」と歌い祈る幼稚園が大好きだった。

その後カトリック大学に進学し、キリストの愛が溢れんばかりのシスター方に出会って信仰の素晴らしさを知り、受洗。

キリスト教とは無縁だった夫は、結婚に際し、神父様と面会し私の信仰を邪魔しないなどの約束をさせられ、結婚講座を受けた。信者の信仰を教会全体で守る姿勢に夫は感心していた。

受洗した夫と共に歩む

結婚後徳島に来て息子が一歳になった頃、突然夫は大病を患う。私が教会で祈っていると、初めてお会いしたイスマエル神父様が笑顔で「一緒に珈琲飲みましょう」と声を掛け、病院に夫を見舞って下さった。

幸い完治した夫は昨年3月に受洗、この度、一緒に堅信の秘蹟にあずかった。生涯いつも共にいて歩んで下さる神に感謝。

徳島教会　櫻間忍

諏訪司教司式でミサ 祭壇の再設置祝う

宇和島教会

愛媛地区宇和島教会では、ヨゼフ呉文成（Ngo Van Thanh）師が、２０１７年12月1日に担当司祭として着任された。

宇和島教会では、聖堂中央に置かれていた祭壇の再設置を行い、使徒ヨハネ諏訪榮治郎教区長司式の元で、4月15日に祭壇の再設置祝福ミサを行った。

ヨゼフ呉文成神父は、宇和島・八幡浜教会の担当司祭として、日曜日には2聖堂での主日ミサの他、宇和島教会での月に1回の英語ミサに加えて、5月からはもう一回の英語ミサを愛南町にある岡澤クリニックのテレサルームでも開催している。

宇和島教会での英語ミサにはこれまでにも30名から40名程度の参加者がおり、愛媛最南端の愛南町から多くの信者が参加している。

ミサ後に行われる分かち合いでは、言葉や習慣の壁を越え、神の家に集う和やかな交流の時間が流れている。

一方、八幡浜教会ではベトナム語ミサを6月から月に1回開催する。

諏訪司教司式の合同ミサ後

野村の農業公園を訪れて楽しく交流

八幡浜・宇和島の教会

愛媛地区南予ブロック、ユニット教会交流会が、去る5月13日（日）開催された。

南予ブロックユニットは、宇和島教会と八幡浜教会であり、2教会の交流は、遡って１９８９年5月14日に八幡浜教会の担当で、ラファエル・サンズ師の元、三崎半島の三崎灯台へ交流会に出かけたとの記録に始まる。

教会年表では本年で19回を数える。最近で開催できなかった年は、担当司祭不在の昨年である。

2教会は、これまでに深いつながりが築かれ、今日、ユニットを形成している。

今年は、宇和島教会の当番で、西予市野村農業公園ほわいとファームへ出かけた。

あいにくの雨に見舞われ、園内を十分楽しむことはできなかったが、雨上がりの時間を使って、清流に現れる滝やヤギの観察なども楽しむことができた。

また、ヨゼフ呉文成神父と若者達は、バレーボールに汗を流し、ビンゴゲームでは当園のアイスクリームが景品として提供された。

来年は、八幡浜教会が、新たな観光地発掘を始めている。

（八幡浜教会　清水裕子）

宇和島・八幡浜教会の参加者

TSCからのお礼

6月10日に行われました東日本大地震被災地ベース活動報告会での被災地物産販売は完売し、総売り上げは30万円を超えました。

御協力をいただいた方々に心より感謝申し上げます

TSC高松ボランティアセンター
東日本大震災大船渡支援
献金入金報告（含お米券）
（2月11日～6月19日分として）
18万円6千443円
累計（6月19日現在）
1千740万7835円

編集後記

本年も恒例の高松・広島教区合同司祭黙想会が大分県別府市にあるイエスのカリタス修道女会亀川黙想の家で行われた。

本教区報の発行日が迫る中での開催か、何かしら、安眠できずに悶々としていたが、講話の中の「重荷を負うものは私の元に来なさい。休ませてあげよう」との主のお言葉で、何とか仕上げることが出来た。協力者の善意を思い、皆さんが手に取り読んで下さるよう願っている。　（J）

聖ドミニコ宣教修道女会

私たちは、自分を創造しようとするこどもを
まなび、護りましょう
暁 の 星 学 園
鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園